

<発表者> 指導区名：北 〓 指導区 氏名：山之内美穂

1 発表テーマ

北 〓 地域における再造林推進に向けた取組について

2 テーマの趣旨・目的 <取組課題選定の背景含む>

北 〓 地域の民有林面積は約85千haで、約5割がスギ・ヒノキ等の人工林となっている。このうち、利用可能な7 齢級以上の面積は約95%と11 齢級をピークに資源が充実している一方、1～4 齢級までの森林資源が特に乏しい状況であり、今後、将来にわたり持続可能な森林経営を行っていくためには、再造林面積の確保が喫緊の課題となっている。

しかしながら、人工林の伐採が年々増加する一方で、再造林率は33%に留まっており、このままの状態が続けば、当地域の森林資源の循環利用は困難となり、森林資源が枯渇する恐れがある。

このため、令和元年に策定した北 〓 地域未来の森林づくり推進プランの目標達成に向け、循環型林業の体制づくりを目指し関係者一体となった再造林推進の取組について報告する。

3 現状及びこれまでの取組みの成果・課題

① 成果

- ・北 〓 地域未来の森林づくり推進会議の開催
- ・ドローン活用研修会の開催
- ・北 〓 地域再造林推進研修会の開催
- ・県、市町、林業事業体の連携強化による再造林推進
- ・苗木生産実践講座の開催による新規生産者の確保・育成
- ・アシストスーツ着用による下刈作業等労働負荷軽減の提案及び効果検証

【北 〓 地域の再造林及び下刈面積の推移】

区 分	H27	H28	H29	H30	R1
人工林伐採面積(ha)	153	181	196	191	207
再造林面積(ha)	9	31	45	49	68
再造林率	6%	17%	23%	26%	33%
下刈面積(ha)	14	17	39	117	145

② 課題

再造林面積は年々増加傾向にあるが、再造林率は低位に留まっており、更なる再造林推進を図っていく必要がある。また、併せて、造林面積の増加に伴う下刈面積の急激な増加による労働力の確保・育成が急務となっている。

4 今後取組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

ア 造林・保育コストの低減，必要な労働力の確保・育成

- ・ 造林・下刈作業の労働負荷軽減の効果を検証し，造林・保育コストの低減に繋がる提案を行っていく。
- ・ 管内の意欲ある事業者における造林・下刈班の育成を図っていく。
- ・ コンテナ苗の活用による植栽時期や労働力の分散化により，労務の省力化を促進していく。
- ・ 新規就業者の確保に繋げるため，普通科の高校生等を対象にした林業の就業PRを行っていく。

イ 優良苗木の安定供給体制づくり

- ・ 再造林面積の増加に伴う植栽時期の分散化や苗木の需要増に対応するため，引き続き，コンテナ苗生産量の増大に向けた苗木生産者の確保や生産技術の向上を図っていく。
- ・ 品種の明確な苗木の生産拡大と需給のマッチングによる安定供給体制の構築を図っていく。

ウ 再造林推進に係る体制づくり

- ・ 再造林推進パンフレット等により，引き続き森林所有者等への再造林の必要性についての普及・啓発を行っていく。
- ・ 未来の森林づくり推進会議や各種技術研修の開催により，再造林に対する意識の醸成や技術の向上等，引き続き関係者一体となった取組を進めていく。
- ・ 市町と連携した伐採届出制度の厳格化による無秩序伐採の抑制や林業事業者による伐採・造林に係る行動規範の遵守の徹底を図っていく。

② 理由

年々増加する人工林伐採面積の増加に対応するためには，現在，当管内の造林・下刈作業の大部分を請け負っている県外業者から，極力，管内での労働力の確保を早急に進める必要がある。

③ 期待する成果

これらの取り組みによる林業事業者の意識改革により，今後の再造林面積の拡大に伴う造林・下刈の実行体制を確立し，併せて林業就業者の確保・育成による林業事業者の体質強化に繋げることで，北 地域 の 循環型林業の体制づくりに寄与する。